

この人に インタビュー

INTERVIEW

(株)主婦の店 土岐店
代表取締役社長

まさる
土本 大氏

インタビュー

広報委員長 (株)4×4エンジニアリングサービス 松本 信廣
広報副委員長 東濃 碍子(株) 安藤 英夫
広報委員 立風製陶(株) 林 立也
広報委員 ヤマゴ建設(株) 加納 孝之



(株)主婦の店 土岐店

〒509-5142 土岐市泉町久尻40
TEL 0572-54-1234 FAX 0572-55-5723

つちもと まさる 土本 大氏 プロフィール

生年月日 昭和23年3月15日
血液型 O型
家族 父・母・妻・長男

松本：今日は主婦の店チェーンの代表者土本社長をインタビューさせていただきます。

早速ですが主婦の店という、私にとっては昔子供の頃母親と一緒に買い物に行ったという記憶なのですが。

土本：「主婦の店」というお店の名前で営業してみえる企業はほとんどなくなりましたね。

昭和30年代初頭に日本全国で、食品を一所でまとめてセルフサービス方式でお店をスタートしたのですが、こういうチェーン店ですから、どういう名前にしようかと検討した結果、お客様は主婦の方が多いので主婦の為の店「主婦の店」となったときいています。

松本：「主婦の店」の名前は登録商標ですか？

土本：そうではないですね。今でも浜松にはこの名前で看板を出している店があります。

松本：誰が使ってもいいのですか？今から登録されてはいかがですか…笑。

土本：昔はダイエーさんも三宮で主婦の店として、パローさんも恵那で主婦の店として営業されておりました。当社も昭和33年に主婦の店としてオープンしました。

松本：ずっと、この土岐市で事業展開されているのですね。



安旅行にノミネーション。何かあると飲み会の多い会社でした。この会社は自分には合わないと思いました。今でもこの業界に身を置いていながらいけないのですが、会社のためにも土本家のためにも、良い意味で私はずっと異端者で居続けよう、それが自分の存在価値だと思っています。

松本：ところで先代はどんな方ですか？
安藤さんもよくご存知ですか？

では、年商と社員さんの数をお聞かせください。

創業から来年で50周年、入社して30年

土本：来年でちょうど50年になりますが、売り上げは直近の決算で約57億です。従業員数は8時間換算で220名ですね。

松本：220人というと地域の雇用という社会的責任を果たしてみえますね。地域になくてはならない企業ですね。聞くとところによりますと、社長は土本家へお婿さんに来られたと伺いましたが。

土本：妻の父から「養子に来なければ娘はやらん」と言われたので…。笑

私が入社したのは昭和53年の8月1日で、その1日前の7月31日に、12年間勤めた会社を退社して参りました。

松本：前の会社との業種が全く違ったそうですが、その辺のカルチャーショックというようなことはありましたか？

土本：社風が全く違いましたね。びっくりしたのは、年末の忙しい時に魚売り場へ行った時、陳列台のバックヤードで一升瓶を見つけました。父に知らせましたら「それがどうした。この話しはこれで終わりや」と言われ、自分とは別の世界だと感じショックでした。

松本：寒く冷たい料理場では、コップ酒で身体の中から温めるということなのでしょうね。

土本：昔はこの本社ビルの3階が飲食系のテナント街でしたので、焼きそば等も売っておりましたから、夕方には本部の人間は、食事をしながらビールも飲んでいました。若い人とのコミュニケーションは慰

安藤：親分的な方で20年も前に土岐市の駅前のイメージを描かれたのですが、現在のアウトレットモールと同様の発想で提案されました。当時は西部劇だと思いましたが、今考えるとびっくりしますね。若さがあったてまた優しい方なので女性が惚れるわなー。私も個人的にお付き合いしたら、度量の大きさに感服して、家来になってしまった…。笑

それに福祉への貢献活動にも尽力してみえますよ。

松本：お写真を拝見しても豪快な方と想像できますね。話しは変わりますが社長のご出身地はどちらですか？

土本：私は瑞浪市で4人兄弟の3番目として生まれました。旧姓は篠田、名前は「勝」でした。実家の父から土本の姓はシンメトリーなので名前もそういう字を探して変えてはどうかと言われました。そこでソニーの井深さんを尊敬していますから、井深さんと同じ「大」と書いて「まさる」にしようと決めました。

平成4年に社長に就任した時に、弁護士に相談して戸籍上も土本 大(つちもと まさる)に変更しました。

松本：瑞浪から土岐に来てどうでしたか？

土本：土岐市は旧8ヶ町村が一緒になった市ですので、旧町民の意識が強いことにあきれました…。笑
私はJCはやってないんですが、ロータリーでも消防でも同じようです。父はあまり地域の付き合いをやってなかったので、私にはロータリーに入らないかと言われ、同じ日に加納さんとロータリーに入会しました。ご縁がありますね。

加納：同じ日の入会は土本さんと度会さんと私の3人でしたが、その中では土本さんが一番真面目でした。

松本：法人会もJC、消防、ロータリー、ライオンズ、

みんなつながってきますね。地域のお付き合いは大事ですね。

土本：そりゃ、逃げられません。

加納：林さんも消防の団長さんでしたね。

林：今年の3月で無事退任しました。

松本：それはご苦労様でした。消防をやれば地域の人になれる。また地域の人も認めてくれますよね。

安藤：組織の中でできた人脈、プレーンが大切ですね。

こころしごと お客様とそして地域の方々と心通う企業であり続ける

松本：パンフを見せていただいたら「こころしごと」とタイトルにありますね。

土本：「こころしごと」それは社員、お客様そして地域の方々と心の通う企業であり続けたい。土岐商工会議所の視察でディズニーシーへ行った時、宴席で乾杯の発声を当時の籠橋会頭より指名されました。挨拶のかわりに「今日、皆さん気が付かれたこと何かありますか？」と質問をしたんです。「ディズニーシーの従業員さんたち、どんなあいさつを言っていましたか？」皆さんは「いらっしゃいませかなー」「どうだったかなー」と気が付いた人はいなかったのですが、それは「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」というあいさつだったので。早速うちでもこのあいさつを取り入れようと、店の人たちに、時候のあいさつの方がいいよと提案しました。東濃弁で「今日は暑いですね」「こんにちは、今日は寒いですね」の言葉掛けを言うてもらうことにしました。「今日はあつ～ね、さむ～ね。よう来てちょうだ～たのう」ですよ。それ以来ずっと最後には「お気をつけてお帰りください」と言葉を添えてくれるように社員に言って実行しております。

安藤：なるほど「いらっしゃいませ」だとお客さんからの返事はないですね。

土本：時候のあいさつですとお客様もあいさつで返してくれるんです。



松本：これからのサービス業はやはりこころが通じるといことが大切ですね。ところで地域の方々に心に残る人物は？

土本：商工会議所で、玉樹会頭や昭英製陶の加藤副会頭、法人会の土岐支部長でもある佐分利副会頭と一緒に役をやらせていただいていることは、経営者としてもすばらしい方々ですし、人間としても尊敬のできる方々で、講師料を払わなければいけないくらいとても勉強になっております。それからJA陶都信用農協の理事長や岐阜県信連の会長だった鈴木和良さん、何に感動したかと言うと、お宅に伺った時に、手入れをきっちりされた閑静なお屋敷の奥ゆかしい趣きに感動致しました。

安藤：そのお屋敷は皇女和宮の泊まれた家を移築されたお宅で、家そのものが美術館のようですね。

土本：「8の実力しかないのに10の仕事を望むのは反対やぞ」と言われた。「10の力が出来たら8の仕事をやれ」と鈴木さんから教えられました。

松本：これは政治家にも聞かせてあげたいですね。

土本：新しい土岐市長には地域の人口が増加するような政策を頼みたいです。また法人会ですから、納税のことについてお話しますと、日本は自主申告制度ですから、正しく申告するコンプライアンス、これは基本的に心掛けるべきことですが、あと西川会長がいつも言われる「しっかり儲けてしっかり納税する」これがひいてはお国のためになりますね。

若い人は可能性を秘めている。どんどん出る杭になれ！

加納：次世代を担う若い経営者に一言お願いします。

土本：いろんなところでお会いする若い人にいつも言ってることは、どんどん出る杭になれ、もうちょっと言えば出すぎよ、ちょっと出る杭では、たたかると元に戻っちゃいますね。どんどん出すぎてくれと言いたいですね。

松本：もぐらたたきにめげるなですね。

土本：論語に「後世恐るべし」という言葉がありますが、僕は若い人は可能性を秘めているし、若い人をなめちゃいかんと思っていますし、若い人に学ぶところも多くあると思います。だから私は若い人と話すのは大好きです。人生の先輩の人と話すのは苦手なんです。だいたいこちらが一方的に聞かれますからね...笑。大方の人は苦労話を言わずに自分の成功話や自慢話が多いですから。苦労話をしてくれれば参考になるんですけど。

林：人生観とか座右の銘は？

土本：人生は一度きり、死んだらそれまで。私は3回死にかけていますので、死に対してそんなに恐怖心はないですね。素直に受け入れられる。だからその時その時を一生懸命に生きようと思っています。座右の銘は「われただ足ることを知る」「一遇を照らす」という言葉が好きです。京都の竜安寺のつくばいの中に中央の水穴を「口」に見立てて、周りの四文字が共用して「吾、唯、足ることを知る」と読むわけですが、その中には釈迦が説いた「知足」の心があるのです。何事もやらせてもらってるいることが勉強との想いで自分に鞭うってやっております。

趣味はジャズが大好き

松本：趣味は何ですか？

土本：私はいろいろな芸術が好きです。絵画を観たり、書を観たり、その中でも音楽はなんでも好きですが、特にジャズが好きです。ジャズについての情報がありましたらどんどんください。どこでも飛んでいきますから...。笑

松本：ジャズが趣味と言われた方は「この人にインタビュー」では初めてですよ。

土本：仕事が終わりますと、事務所の人間は6時には皆パーッと帰りますの

で、ここは私のスペースになります。1人でジャズのCDを聴いたりしています。

本も好きですが作家は五木寛之氏。この人の本は昔から読んでおります。彼の本の中にはジャズの心があります。そして、ジャズの中には仏の心があると感じるのです。言葉で説明できないのですが...。あとは、私は食いしん坊ですので、うまい物の食べ歩きとか旅行も好きですがなかなか時間がなくて行けませんね。

林：ところで経営者にとって事業継続の要は何だと思いますか？

土本：それはテクニックや技術とかではなく、経営者として、また人としての「志の高さ、いかに志を高めておくか、志がぶれないか」これが一番必要だと思います。

松本：食を通じて社会へ貢献してみえるわけですが、今子供に大切なことは食育と徳育ですね。朝、親が作った食事を取る子供は頭も性格もよいそうです。

安藤：統計的に証明されているようですね。

松本：どうか、今後も良い食材を提供して地域密着型で地域の方々の健康を支えて下さることをお願いして終わります。

安藤：そして多治見法人会厚生委員長、土岐支部の副支部長、また土岐商工会議所副会頭としてもお世話になりますが、よろしくお願ひ致します。

